

●天然記念物のアユモドキ捕獲調査 亀岡 9月17日 視察参加 山岡 山村

京都府で唯一の天然記念物アユモドキの捕獲調査が9月17日午前10時から行われました。ここはサッカースタジアムが予定されていた場所で、貴重な生き物の生息場がスタジアム建設で生息地が守られなくなるとから運動がおこり、生息地が残されました。地域の人々がファブリダム（風船ダム等ともいう）での貯水を流し、生育観察調査が毎年実施されてきました。自然環境保全京都府ネットワークの視察見学が計画されたので参加をしてきました。里山の会が馬坂川で貯水をしていただいて親子花見体験を行えるのは亀岡と同じ貯水装置が設置されているからで、亀岡市のアユモドキも風船式のダム装置が稲刈り前になると田圃の水が必要でない時期に合わせて調査観察が実行されてきました。

スタジアムが完成して2年目になりました、その影響がどのように及ぼしているのか、お聞きしました。午前中の調査観察会の後、亀岡市の抱えてる諸問題について意見交換を15時まで行われました。



絵葉書に描いたアユモドキ



救出されたアユモドキ



救出を観察



同定作業が進む本部席

コイ フナ コウライニゴイ カワヒガイ マドジョウ スジシマドジョウ メダカ ドンコ タモロコ ヌマムツ

カワムツ カマツカ モツゴ ヤリタナゴ ナマズ イチモロコ オイカワ アユモドキ バラタナゴ カイバラ ザリガニ ヒゴイ

同定人中田さん

調査箇所 6 か所 友好を深められたみなさん 奥村さん メダカの専門家 亀岡高校の教師 生徒4人

●木津川漁業協同組合への協力金支払いについて (3 回目の組合長との話し合い)

これまで里山の会の木津川での取り組みは、河川レンジャー活動の一部として国交省からの承認と支援を受けて行ってきました。近年この関係が希薄になり、里山の会独自の取組となってきた万が一の水難事故の発生などが考えられるので木津川漁業組合さんの後援も必要となつて後援依頼を申請すると協力関係にない団体には協力できないとの連絡があつて2回組合長さんの説明をいただきました。木津川での取り組みや活動をされる場合、遊漁券を購入されている皆さんにご迷惑が及んでいるから、遊漁券を購入されていない場合、購入者の立場で漁業組合は動いています。とのことでした。また多くの諸団体からは木津川を管理保持している組合に対して協力金が寄せられているので、それらの団体に漁業組合は協力をしています。しかし里山の会とは協力関係が作られていないので協力できませんとのことでした。今回第1回魚釣りをを行う場合大人については遊漁券の購入をお願いするとのことだったので、遊漁券を購入させて頂くことで折り合いをいただきました。また子どもカヌー体験についても協力関係ができるように要望がありました。ここについても木津川で一番良い釣り場での取組だから遊漁券の購入は用意(14人×700円=9800円)することになりました。

●竹サインペン製作に京田辺市立竜王青少年センター訪問館長磯谷氏丁寧に対応 協力者紹介される

竹サインペン製作に具体的に取り掛かって早くも1年半が過ぎました。最初に竹嶋修二さんが手造りをしていただいたころは何一つ道具がなくて、ナイフでの工作が始まりでした、今ではサンドペーパーや穴開け卓上ドリル、竹割精製機

小型のバンドソーなどが集まってきました。そしていま最も必要なのが正確に長さが切れる竹切用鋸です。それで京田辺市の大住にある青少年野外センターのクラフト室を訪ねましたところ、館長の快諾で工具を見せていただき職員さんが色々ヒントを提案いただきました。別に館長さんの紹介で福祉施設のライ

フ・アシストの井山信久さんをご紹介いただきました。これからどう進めていこうかと悩んでいた時、理解者協力者をご紹介くださってよかったと思います。10月4日に訪問してアイデアを説明してみたいと思います。

●子どもカヌー体験会 16日現在の申込大人14人 子ども11人 25人 一人乗り13 二人乗り4 17艇

参加申し込みは25人となっています。

当日は朝方雨が降り厳しい天候が続いてきまして、カヌー体験には熱中症対策が必要と考えましたが、薄曇りだったので心配は無用になりました。また水量も非常に減少していて常に川幅一杯になっている所に砂州が出現して本流が珍しく南北の二本になりました。ですから笠置の名物の巨岩や奇岩には苦労なく到達できて教室での学びの時間に余裕ができました。この奇岩の間の砂浜で水遊びもでき、これまでとは一味違ったカヌー教室が行われて予期しないレクリエーションで木津川を印象深く記憶に残せたのではないのでしょうか。開始時刻に遅れないように全員が集合いただきましたのでスケジュール通りの運営ができました。



パドルと操作やカヤックの安全性などを上田さんから説明を受ける 真剣に聞き入



●週刊ニュース 999 号に到達 1000 号記念ボールペン発送準備開始

創立されて5年ごろ木津川に絶滅危惧種が生育していることが分かってその保存の大切さに気付き木津川出張所の所長から、任意の団体では国交省淀川河川事務所は中々相手として扱ってくれないので、今特定非営利団体という法人格を取ることが真正面から要望を取り上げられる近道「NPO」とのご指導があって喧々諤々（定款・会計報告・活動報告の事務処理を誰が行うのか等）の論議を重ね2002年に承認を得られ、希少植物について国交省淀川河川事務所も必要性を徐々に認めてくれるようになりました。2004年ごろになると活動の回数も内容も充実して会誌だけでは報告できないようになって週刊ニュースの発行によって事業報告がスピーディーになり皆さんに伝えられるようになりました。この取り組みも毎週発行には後ろ向きな意見もありましたが、力を合わせてここまで到達出来ました。最初の頃も今も同じですが配達体制が大問題です。郵送などを取り入れると莫大な送料が発生しますので、できるだけ手配りで届けることにしました。またFAXを活用しました。するとインク代が高くつくから中止してほしいとの声が寄せられるなど予想していなかった出来事が沢山発生しました。現在はメールやホームページの時代に移ってきていますのでかなりこれらの問題は解決されるようになってきました。こうして現在ではパソコン教室の一環としてホームページの更新がされてここに1000号到達出来ました。創刊時代から一貫して戸別配達を貫いて重責を果たしていただいている会員さんも数人おいでになります。本当にご苦労様です。こうした皆さんがおいでになるのでみんなが頑張ることができているのです。活動が続けられているのです。

●会誌 55 号原稿募集

任意団体として結成された時ご加入いただいた会員さんにも、やろうとしていることは大変良いことだが、足腰が弱いのでなかなか行事に参加がおぼつかないとおっしゃる皆さんが多数おいでになりました。それじゃ有名無実の会員になってしまうからどのように活動進めてきたのか結果報告をしなければならな

いのではないかと、年々2回の活動報告を実行しました。当初は発行を積み重ねることは無理だろうと大変心配する声が多くの方々から上がりました。しかし苦勞でしたが積み重ねて積み重ねて大きな成果を狙わずに継続することが大切だの言葉に導かれて27年間何とか続けられ、会誌もなんと55号発行を迎えます。多くの会員さんにも一文をお寄せいただきたいと思います。どんな時も会誌を考える時、どのようにして原稿を集めるかがまず最初に出てくる課題です。これまでの54号会誌のいずれも同じ悩みの連続でした。今回も原稿が集まってくるだろうか、どのような提起をすれば応えていただけるのだろうかと心配が絶えません。自動的に集まってくるものではありません。会誌原稿を集めることには継続的に熱い心を持ち続けなければならないのです。多くの皆さんはご経験をされてきておられると思います。こうした苦勞を積み重ねて55号の発行になってきました。「会員の広場」は、この会誌の最も大切なコーナーで充実させていかなければならないところです。今年の夏は異常な高温続きでした、また残暑というにはほど遠く真夏日が彼岸近くにまでとなりました。この夏を乗り切るに沢山の工夫をされてきたことでしょう。その一つをお知らせいただけないでしょうか皆様の声をお聞かせください。お待ちしております。これまでは京田辺市民文化祭に向けて発行しようと頑張ってきましたが、今年から展示発表や模擬店へ出店経費が必要とされたので、長年続けてきた京田辺市の市民文化祭への展示と模擬店も辞退することになりました。大変残念なことになりますがこれも時代の流れなのでしょう。しかし機関誌と位置付けてきた会誌「里山の自然」は里山の会の会員同士をつなぎとめる大動脈ですので、力を振り絞って継続してゆきたい里山の会の宝物です。会員諸氏のご協力を切にお願い申し上げます。

●第1回魚釣り準備進む 9月20日現在 参加申込者50名に到達

大阪の城北ワンドでのイタセンバラの自然生息を目指してこられている前大阪工業大学教授の綾史郎先生から釣竿等必要備品の貸し出しについて快諾をいただき、里山の会で準備に苦勞しているならさらに協力するからと、力強いお声かけをいただきました。事務局一同勇気百倍元気を出して会場整備に頑張ろうと決意をさらに固めています。参加の問い合わせに、宇治の大久保から自転車で参加したいがどのルートが安全ですか、などの連絡がありました。あまり大きく宣伝していないのですが、広がっているなあと思っています。9月30日当日は玉水橋東詰め北側の堤防広場が集合場所になっていますので間違わないように事前確認してご参加ください。

●魚釣り大会の会場整備の草刈りにお手伝いをするとメールをいただきました。

大変うれしいことです。お申し出有難うございます。

開場予定池の周囲の整備はまだまだ不十分で、安心して楽しんでいただけるようにするには人手が足りない状態です。これから馬力をかけなければならないと思っていますところに、お手伝いをす

第1回木津川 親子魚つり大会

木津川にイタセンバラの復活を目指す取り組み

場所:京都府綴喜郡井手町 玉水橋 徒歩10分

2023年9月30日(土) 9:00~12:00

どんな生き物がいるのかな?

木津川は淀川水系中、イタセンバラが最後まで生息していた川です。やましろ里山の会ではワンド・タマリの環境を良くして、天然記念物のイタセンバラの復活を目指しています。しかし、ワンド・タマリの環境は悪くなっているため、環境整備・調査をしながら環境をよくするための取り組みをしています。その一環としてこのワンドで第1回木津川親子魚つり大会を計画しました。

受付 9:00
参加対象 小学生以上
持ち物 釣り道具 自前のものをご用意ください
貸し出し用の竿 30本あります
エサ バケツも準備します
飲み物 帽子 タオル
足元のしっかりした靴 着替え
★熱中症対策をしっかりとして下さい

参加費無料

申し込み方法 インターネット(スマホ等)の専用フォームから申し込んで下さい。
<http://8046satoyama.starfree.jp/fishing/event-index.php>

申し込みフォーム



玉水橋 東詰め 北の広場 (駐車場有) 初心者大歓迎

小学生は保護者同伴のこと 20組



主催 NPO法人やましろ里山の会
協力 京の川の恵みを生かす会 ぼれぼれらんど 摂南大学エコシビル部
イタセンバラネットワーク 木津川河川レンジャー(予定)



るとご連絡をいただきました。大変有難いことです。みんなで天然記念物イタセンパラの復活を目指しての取組を発展させてゆきましょう。お声かけありがとうございます。勇気をいただきました。

秋の親子植物観察会 参加者募集

暑さ寒さも彼岸までとはよく言われてきましたが、近ごろはそんなにはっきりした変化はなく、夏の継続があるようですが、植物の世界ではこの頃になってくると間違いなくヒガンバナが咲きだします。そして田圃では早いところでは稲刈りが行われ、マーケットでは新米販売が始まります。京田辺でも山間部では秋の植物が咲き始めます。そうした中、竹林道を訪ねてみようと思います。秋の七草にどれほど出会えるのでしょうか。今回も前同志社大学准教授の光田重幸先生のご参加を得て開催いたしますのでかなり充実した深い内容になってくるとと思います。こぞってお越しください。

これまでの散策は花を訪ねるものが中心でした。里山の会では竹林の繁茂問題は幾度も話題になってきましたが現場を訪ねてみようとは進みませんでした。まさに「灯台下暗し」そのものでした。今回は京田辺市役所付近の竹藪を訪ねることになりました。案外知っているようで知らなくて驚くような発見が沢山あるのではないのでしょうか。興味津々です。ぜひ一度は訪ねておくべき取組ではないのでしょうか。いたってローカルな取り組みでもあり魅力いっぱいの結果が期待できると思われますので、多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

10月1日(日) 10時~14時

集合	京田辺市役所正面玄関 自動車は駐車場へ ルート酒屋神社方面へ進み 14:00 頃戻り解散 徒歩 往復約 6km 観察しながらゆっくり散策します
申し込み	里山の会へメール・電話で 住所 氏名 年齢 当日飛び込み参加 OK
参加資格	年齢制限なし 人数制限なし 小学生は保護者同伴
講師	光田重幸 京都植物会代表 京都植物園特別役員 京都府レッドデーター選定員
案内助手	伊藤千恵子(里山の会植物部会担当者)
持ち物	弁当 水筒 筆記具 カメラ等
服装	帽子 長袖の上着 長ズボン しっかりした靴
参加費	無料
秋の七草	ハギ ススキ クズ ナデシコ オミナエシ フジバカマ キキョウ



主催 特定非営利活動法人 やましろ里山の会 事務所 京田辺市田辺深田 15

電話：0774-64-4183

メール fddb257@yahoo.co.com